

単元構想シート ○○小学校 第2学年 国語科 単元名「1年生におもちゃまつりで、うごくおもちゃのハンドブックをプレゼントしよう」 全12時間

<p>単元目標 (育成したい資質・能力)</p>	<p>○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知識及び技能 (2)ア) ◎伝えたいことを相手に分かってもらえるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等 B書くこと イ) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思考力、判断力、表現力等 C読むこと ウ) ○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>二つの側面 A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>三つのプロセス ①発見・蓄積 必要な情報を確かに取り出す ②分析・整理 情報を比較し、関連付けて整理する ③再構築 自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
------------------------------	--	--	--

単元の流れ ○主な学習活動 □指導上の留意点	「読み解く力」を育成するための手立て	「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿	
		A：文章・グラフ・図から	B：やりとりから
<p>◎生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」を実施しておく。並行読書として、関連図書を生活科の実践の前から教室に置き、作り方を説明する本に触れさせる。</p> <p>≪第一次≫</p> <p>①単元の学習活動や目的を理解し、単元のゴールまでの見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>□教師のモデルを提示することや、生活科でのおもちゃ作りや1年生の時の生活科での「1・2年おもちゃまつり」での交流学習を想起する場を設定することで、学習課題に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>□1年生にプレゼントする説明書を作るために、気をつける視点を明確にする。(字の間違い、わかりやすい文、見やすい、など)</p> <p>②単元のゴールまでの見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>≪第二次≫</p> <p>③④教材文を読み、馬のおもちゃを作りながら、わかりやすい説明の仕方や説明の工夫を見つける。</p> <p>□文章の構成を捉え、説明書に必要な項目を確認する。</p> <p>□作り終わった後で、作るときに気をつけたところや、読み返したところなどに線を引かせる。</p> <p>□写真や図の必要性に気付けるようにする。(文しかないもの、文と絵が一致しないもの、文と絵が一致しているものを提示する。)</p> <p>⑤友達と交流し、わかりやすく説明するための工夫を全体で共有し、自分が使いたい表現や工夫を見つける。</p> <p>□交流することで、自分の考えを確かなものにし、自分が使ってみたい表現や工夫を見つけられるようにする。</p> <p>□全体で共有し、「説明書名人」になるためのポイントをまとめる。</p>	<p>◎目的意識・土台作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の「1・2年おもちゃまつり」の最後に「おすすめのおもちゃ」の作り方を1年生にプレゼントするという言語活動を設定する。 1年生にわかりやすい説明の仕方について気をつけたい視点を共通理解する。 教室に関連する図書資料を設置するとともに、生活科の活動の中で、困ったことや工夫したことなどを振り返りシートに書きためておく。 単元の始まりに説明書作りに向けて「どんな活動や手順が必要か」を児童とともに確認し、学習計画を立てる。 <p>◎発見・蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、説明書を作るときに大切だと思ったところや工夫していると思うところに線を引いて、着目しやすくする。 手順と取り入れたい工夫を色分けして付箋を用いることで視覚支援を行い、必要な情報を取り出し、構成しやすくする。 <p>◎分析・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋を用いることで、容易に手順や工夫などを移動させることができ、試行錯誤しやすくする。 交流するときには、ワークシートを見せ、場所を示しながら話すことで、相手にわかりやすくなることを学習してきているので、話合いの仕方を意識して進められるようにする。 	<p>①文章や資料等から、目的に応じて情報を取り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、説明する文章の表現の仕方や書き方の工夫を見つけている。 	<p>①相手の言葉、しぐさ、表情をもとに相手の思いを感じ取る</p> <ul style="list-style-type: none"> やりとりをする中で、相手の立場になって、友達の選んだ部分やそのわけを理解している。
		<p>②様々な情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文から見つけ出した情報の中から、自分の説明する文章に必要な情報を選んでいる。 	<p>②相手の思いや意図を自分の考えや経験と比較しながら整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> やりとりをする中で、自分の考えだけでなく、友達が見つけた表現の仕方や書き方の工夫に気づき、その中から生かせるものを選んでいく。

≪第三次≫

⑥みんなで考えた書き方の工夫を確かめ、自分の選んだおもちゃの〈前書き〉〈材料や道具〉について、説明書を書く。

□説明書の項目ごとに教材文で確かめた後、すぐに自分の選んだおもちゃについての説明書を口頭で説明し合ってから書くようにする。

⑦みんなで考えた書き方の工夫を確かめ、自分の選んだおもちゃの〈作り方〉について、手順を思い出し、メモを書いて自分で構成を考える。

□作り方の項目については、別にワークシートを用意して、文の組み立てを考えられるようにする。

□作ったおもちゃを常に手元に置いて、確認しながら進められるようにする。

⑧自分の作ったおもちゃの〈作り方〉の手順の説明の構成をはっきりするために話し合っ、わかりやすい説明の構成にする。

□友達と学び合う中で、よりわかりやすい説明書にできるようにする。

⑨話し合っははっきりした構成をもとに、〈作り方〉の手順の説明書に取り入れたい表現や工夫を用いたり、絵を描いたりする。

⑩みんなで考えた書き方の工夫を確かめ、自分の選んだおもちゃの〈遊び方〉について、説明書を書く。

□本の紹介文や「こんなもの、見つけたよ」でお家の人に知らせた文の中でも取り入れた、相手に呼びかけたり、誘ったりする表現の仕方を想起して書けるようにする。

⑪書いた文章を読み直す。

□第一次で考えた視点を基に、まずは自分で読み直し、その次に友達と読み合う中で、さらにわかりやすい文章になるようにする。

⑫学習のまとめをし、単元での学びを振り返る。

・表現や書き方の工夫を交流する際には、順序を表す言葉や絵などの工夫が、手順の説明をわかりやすくすることを実感できるようにする。そのために、まず自分で考える時間を確保し、自分の考えをもたうえて、グループで共有させる。

・友達と交流する中で共通点や相違点に注目し、自分の考えを確かにし、友達の良いところを見つけ取り入れたりする。

○再構築

・交流しながら、書き加えたり、操作したりすることが困難な児童もいるため、交流をした後に、考えの変わったところ、付け足ししようと考えたところなどを自分のワークシートに反映する時間を確保する。

・振り返りでは、めあてに関わって振り返りができるように視点を示し、毎時間小さな再構築を積み重ねられるようにする。

○その他

・第三次は、前半を、教科書教材での学習を通して説明書を作るために必要な力を身に付ける時間、後半をその力を活用できる時間とし、往還的に取り組むことで学びを定着させるようにする。

③解釈した内容を経験や知識と結び付けながら考えを深めたり、創造したりする

・教材文から読み取ったことや

友達とのやりとりを通して得たことを活かして、おもちゃの説明書を書いている。

③やりとりを通して、相手の思いや意図を踏まえながら、自分の考えを確かなものにしたり、創造したりする

・友達の選んだ工夫や表現に気づき、考えをより確かにした、広げたり深めたりして、自分の表現に取り入れている。